

平成21年第2号)

日本山岳会 社団法人 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局:北九州市門司区新原町12-27

関口興洋 方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

発行人:大庭常生

編集人:関口興洋・伊藤久次郎

2009年度 第10回通常総会のお知らせ

記念講演は 日本初のマナスル登頂秘話など

- 平成21年4月25日(土) ○とき
- ところ 九州厚生年金会館(ウェルシティ小倉)
- 1. 受 付 午後1時30分から
- 2. 総 会 午後2時~午後3時
- 3. 記念講演 午後3時~午後4時30分

演題「1956年5月11日、マナスルに立つ」

百节苗 講師 實 (日本山岳会 常任評議員)

- 午後5時~午後7時 4. 懇 親 会
- 5. 会 1人5,000円(懇親会費)
- 6. 締め切り 出欠の返事は、案内状(4月上旬郵送)同封のハガキで4月17日(金)まで必着。
- 7. 問い合わせ 事務局 関口興洋まで(TEL/FAX 093-382-6436 携帯090-8919-6776)

記念講演 講師 日下田 實氏(会員番号4146)のプロフィール

125m)か





若き日の日下田氏 (インターネットから)

1930年6月27日 1948年4月

栃木県益子町で誕生 早稲田大学専門部政治経済学科入学 早稲田大学体育会山岳部入部 1953年1月26日 南米アコンカグア主峰登頂 同峰 南峰登頂

同年 1月28日 1954年2月~6月 1954年3月 1956年 1 月~6月 同年 5月11日 同年 6月

2007年6月15日

故加藤喜一郎氏とともに第二登に成功 文部大臣表彰 同年 12月

マナスル登山隊員に銀杯一組を下賜される

日本山岳会第二次マナスル登山隊に参加

日本山岳会第三次マナスル登山隊に参加

早稲田大学第一政治経済学部卒業

(社)日本山岳会栃木支部設立とともに支部長に就任。現在に至る。 なお、日本山岳会の常任評議員を兼務。以上



マナスル登頂50周年記念式典 ネパール カトマンドウで (インターネットから)

公益法人制度改革の進捗状況

(社)日本山岳会公益法人化プロジェクトチーム 佐野 忠則 (東海支部総務委員長)

社団法人日本山岳会は民法34条に基づく公益法人ですが、平成18年5月に成立した公益法人制度改革3法案により大きな変化を迎えます。

この改革は現在の全ての社団法人・財団法人が平成20年12月以降変革を迫られる重要な事柄ですがどう対応したらよいか日本山岳会を含め多数の法人が現在苦慮しているところです。できるだけわかりやすく報告しますのでご一読ください。

最初から愚痴めいたことになりますが、この改革の発端は旧労働省所管の財団法人・ケーエスデー中小企業経営者福祉事業団をめぐる2000年の汚職事件を契機に中央省庁と特定団体との癒着、天下りや民業圧迫を排除することが主な狙いとなっています。本来、日本山岳会のようにまじめに運営してきた多数の公益法人から見ると"とばっちり"と言わざるを得ないような内容も多々ありますが、既に法律は施行され平成20年12月1日以降いやおうなく変革が求められています。

1. 骨子

従来の公益法人は設立も公益性についても主務官庁(本会の場合は文部科学省)が自由裁量で一体的に判断し許可を与えていました。新制度の柱は、天下りを輩出している各監督官庁の許可制は一切排除して、公益性の有無や目的にかかわらず、法務局での登記のみで簡便に法人を設立できるようにすることだったのです。その法人格名は「一般社団法人」「一般財団法人」です。また、さらにそれらの団体の中で公益性があると認定された団体のみが「公益社団法人」「公益財団法人」となり、寄付金の優遇措置などが適用されることになります。

2. 移行手続きについて

前述のように一般社団法人を新たに設立することは簡単ですが、既存の社団法人の場合は簡単ではありません。

新制度では従来の社団法人は、新制度の施行日である 平成20年12月1日から特例民法法人と呼ばれ、そのまま存 続します。特例民法法人は、移行期間と定められた5年後 の平成25年11月30日までは「社団法人」というこれまでの名 称を使用することができます。従来の規定・基準などに基 づき、従来の主務官庁が引き続き指導監督します。

そして移行期間満了日である平成25年11月30日までに「公益社団法人」になるための移行認定申請を行なうか、または公益性の認定を受けない「一般財団法人」への移行認可申請を行ないます。もし期日までに申請を行なわない場合は同日をもって解散したものとみなされます。

ただしどちらへ移行するにしてもいくつかのハードルが あります。現在の日本山岳会は民法に規定する公益法人 であり3億数千万円の財産がありますが、それは無税で蓄積した公益的性格の財産であり、公益的性格のない一般社団法人に移行する場合はその財産を公益目的に支出することが義務づけられています。これを公益目的支出計画の策定と言いこの財産が0になるまで規制が続きます。

一方、公益社団法人に移行する場合はこの支出の必要 はありませんが、法律で定められた公益目的事業が主た る目的となっていて、他の事業に邪魔されることなく活動し なくてはなりません。

その基準は、毎年行なう公益目的事業の実施にかかる 経費が、他の事業の経費や法人の運営にかかる経費の合 計の中で50%以上を占めていることが必要です。

どちらに移行するにしてもそのハードルは高く、多くの社 団法人が苦慮しているところです。

3. 一般社団法人か公益社団法人か

それでは二つの法人の長所・短所はどう考えれば良い のでしょうか

(1) 一般社団法人

新制度は人々の自由な活動を促進し、財産の社会的な活用を促進するという観点から誰でも簡単に法人を設立できるようになっています。

- 団体の公益性や目的を問わず、登記だけで設立可能。
- 社員2名で設立可能。
- 運営に関して官庁の指導は無く自由な活動が可能。
- 税金面では原則課税となるが一部非課税グループもある。

以上のように規制は殆どありませんがその反面、暴力団でもマルチ商法目的の団体でも簡単に設立できるということは、今後大きな社会問題となるのではないかとも言われています。従来の社団法人というステータスを逆手に取った商法に利用され、次第に社会における評価が落ちていくのではないかとの懸念があるわけです。現実に(社)日本山岳会会員というステータスを利用して、ツアー登山や山登りグループのメンバーを集めている会員がおり、かねてから指摘を受けているところです。

(2) 公益社団法人

一般社団法人では今までのような公益性を担保することにはならないのです。そのため公益性を認定する新しい制度が創設されました。内閣府に設置された公益認定等委員会が公益性の認定や取り消しを判断し一定の基準を満たした法人のみが認定され、公益性を世間にアピールできる公益社団法人の名称を使用できます。その反面、厳しい規制もあります

○ 前述のように法律で定められた公益的事業の割合が支

出費用で計って50%以上必要。

- 逆に言えば50%の範囲内であれば収益事業を実施することも可能。
- 前項を担保するため毎年の監査が厳しくその対応に大きな負荷が予想される。
- 税金面では非課税である。ただ収益事業のみ課税 となる。

4. 日本山岳会はどうする

創立以来100年、日本のアルピニズムをリードするとともに登山技術の普及、自然保護活動の推進などに貢献してきた本会としてはどうしたらよいのでしょうか。現在、今後の進路を決めるため宮下会長はじめ9人のメンバーで公益法人化プロジェクトチームを発足させ検討を進めています。全国の支部を代表して東海支部から私も参加し支部サイドからの提言をしています。

現時点では、文部科学省傘下の各スポーツ団体も進路 に苦慮しているところで多くの団体では結論を出していな いようです。

現在、当会に所属している会員の殆どの入会の動機は、 公益事業に参加することではなく山登りの仲間を作りクラブ ライフを楽しむことと、(社) 日本山岳会のステータスに誇 りを感じて入会したと考えられます。

逆に言えば公益法人に移行するため多くの会員に公益事業参加を強制することは困難と思われます。しかしステータスは守りたいという意向は強いと思われます。このような中での進路は次のように考えられます。

一般社団法人を選択した場合は3億数千万円の財産を公益目的に支出していく必要がありますが、それを会費の中

から支出していくことの同意を会員から得ることはかなり困難ではないかと思われます。何年かかって支出するかは議論のあるところですが、その間は毎年実施状況を厳しく チェックされます。ただしそれ以外の活動は自由です。

一方、公益社団法人の場合は支出の50%は公益目的事業の必要がありますが、この場合無償の役務提供も人件費換算で算定することが認められることになりました。現在、東京および各支部で進められている登山教室、森づくりを中心とする自然保護活動、ボランティア登山などは法律で認められる公益目的事業に該当し、実施に際しての会員の役務提供はカウント可能と思われます。

また、これらの活動は長い歴史の中で自然発生的に芽生え、そのメンバーも自由意志で活動に参加しているものです。その費用を人件費換算した場合50%の規制も手の届く範囲と考えられます。

一方、この1、2年の会報「山」では毎号会員の高齢化と減少に対してどう対応したら良いか意見が述べられています。これに対する回答として、今、何もしないでこれまでの路線を踏襲するという選択肢は法律的にはありませんので、今回の法人改革をひとつのチヤンスととらえ進むべき方向を定めて行きたいと思います。

私としては公益法人の道を指向する方が会員の要請に 合致すると考えていますが、検討すべき事柄も多くいずれ の道を選択するにしても前提として会員に無理な要求をす ることなく従来のクラブライフを引き続き楽しめる中で一定 の改革が出来ないかとの観点で検討を進めています。引 き続き進捗状況の報告を行ないますのでご支援をお願いし ます。



広島支部新年互礼登山と新年会に参加 宮島の最高峰「弥山」登頂

No.13499 伊藤 久 次郎



広島支部の交流新年会に参加のみなさん

2008年の年末も押し詰まったころ、 山口県在住の北九州支部会員から、 広島支部の新年登山と新年会参加の お誘いを受けた。山口県在住の会員 は、広島支部とは以前から交流があ り、顔見知りも多い。それに比べて 私は今回が初めての交流で、初めて お会いする方ばかり、と言っても、 昨年の北九州での全国支部懇には広

島支部から9人の 参加を頂いち7人 が福智山と7ち7が福智山と7が、年のうち1にの が、年のせいか、年のせいか、なかないないが、なかないが、 えられなうろ第年1月4日、 島支部の、島

弥山(535m)登山と新年会に参加する ことができた。

当日は、宮島の桟橋に午前8時30分集合ということで、我が家を午前4時起床。朝一番のローカル列車で出発した。無事宮島口に到着し、さらにフェリーで宮島へ。宮島桟橋に少し遅れて集合し、広島支部の方々とご対面。役員の紹介を受け厳島神社経由で登山口へ向かった。私は学

生時代に宮島にきたような気がする のだが、記憶にない。さすが観光地 で人が多い、またシカをあちこちと見 かけたが、人を全く恐れず、シカの 方が態度が横着に見えた。

登山口は各方面から7ルートあり、 たほうとう われわれは多宝塔ルート(約2時間30 分)から弥山山頂を目指した。花崗 岩質の山は、初めは砂山みたいな

> 登りで、ふり返ると海に浮かぶ 赤い鳥居がだん だん眼下に気気 良く、絶まである。午前 11時半ごろ弥山 に次ぐ高さの駒 ガ林 (505.8%)

に着く。巨岩が



宮島の弥山山頂直下の駒ガ林で

階段状に積み重なる大敷岩からは、瀬戸内海が360度の展望で素晴らしい眺めだ。弥山山頂も目の前で、あと30分くらい。山頂は人ばかりで、猿が弁当を狙うということで、ここ巨岩の上で昼食となった。食後、12時ちょうどに弥山山頂に向かって出発、弥山本堂で御利益があるというお湯を飲み、展望台に上がって絶景を堪能し、午後1時前に下山開始した。



弥山(535m)山頂

下山道は「四宮ルート」で紅葉谷公 園に下りて、午後2時半からの新年 会会場である聚景荘に着いた。北九 州支部6人も受付を済ませ、一番の 上座に位置することになった。開会と ともに杉村広島支部長のあいさつが あり、続いてゲストスピーチとして「北 九州支部・元気の秘密」と題し、北 九州支部 関口事務局長のお話があ った。そのあと乾杯、「正調・安曇 節」の歌唱指導や自己紹介などがあ り、時の過ぎゆくのも忘れ、杯を酌 み交わし、素晴らしい交流会であっ た。広島支部から、分水嶺踏査のと きは山口県の原さん、内藤さん、原 野さんたちには大変お世話になった。 広島支部と北九州支部は、深いつな がりがある。これからもさらに交流を 深めていきたいと。また北九州支部 からも関口さんが、今後、宮崎ウェ ストン祭や英彦山山開きなどにも来 ていただき、ますます交流を深めた い、とお互いにメッセージを発信し あって宮島をあとにした。

今回、山口の会員のおかげで、 隣の支部とはいいながら、距離的に 疎遠な関係にあった広島支部の皆さ んと交流が持てたことは大変よかっ たと思います。JACの輪が一つ広が ったようです。広島支部の方々には 大変お世話になりました。ありがとう ございました。

参加者

原 広美 伊藤久次郎 関口 興洋 内藤 正美 原野 幸雄 武永 計介 計 6人

脚カアップに努力すべし!

七大陸最高峰登頂者 石川富康さん語る

福岡支部主催の講演会と懇親会 No.13992 山 田 武 史

平成21年1月17日(土)16時より、 福岡市天神の「福岡天神センタービル」 にて福岡支部主催の講演会と懇親会が 開催され、出席した。

1、講演会

講師は、愛知県刈谷市在住の医師で「石川富康さん」と言う、73歳の方で演題は「7大陸最高峰登頂」でした。

講師の石川さんが、司会者の紹介で 登壇して最初の言葉は「50歳の時、登 山を決意したが、その時の体重が85キ 口だったので、まず減量する事から始 めた。そして今は50キロ」との事。ひ げをたくわえたスリムな講師は、スライ ドを使って自ら登った7大陸最高峰の山 容を映しながら、その時の状況を微に 入りて、そしてユーモアを交えての語り 口は臨場感にあふれていた。きつい思 い出としては、マッキンリーで凍傷によ り左手の指2本を失ったことと、ある山 (マナスル) で、一緒に登った「小西 さん」が体調悪かったゆえ、石川さん が先に登頂し、翌日に回復した小西さ んが単独で登頂したが、行方不明とな った由。いまだ、小西夫人には許して もらえないとの事。

石川さんの、7大陸最高峰登頂は次 の通り。

- (1) 02年 チョモランマ (チベット 8,848m)
- (2) 03年 マッキンリー (アメリカ 6,194m)
- (3) 05年 エルブルース (ロシア 5,642m)
- (4) 06年 アコンカグア (アルゼンチン 6,960m)
- (5) 07年 カルテンツ・ピラミッド (インドネシア 4,884m)
- (6) 07年 キリマンジェロ (ケニア 5,895m)
- (7) 08年 ビンソンマシフ (南極 4,897m)

又、我々中高年登山者へのアドバイスとして、エベレストを目指せとは言わないが通常の登山を楽しむためにも

- イ、脚力UPに努力すべし。(登山地図 に記載の時間以内に歩く事)
- ロ、岩登り技術は、最低でも3級程度 は訓練で身につけるべし。
- との、厳しき示唆があった。

尚、「小西さん」とは、「小西政継さん」だろうと思い、帰宅後、本棚の小 西政継著「山は晴天」を再読すると、 石川さんの名前は見出せなかったが、 現宮下会長の事がかなりの行数で書かれており、びっくりするとともにうれしく思った。

2、懇親会(平和楼)

従来は、福岡支部のみの新年会で あったのを、副島新支部長となったの を機に幅広く、近隣の山の関係者に呼 びかける事にした由。したがって、会 場は福岡支部の方々が中心なるが、J AC関係では、北九州支部、東九州支 部、東海支部の外、九大OB会、福大 OB会、福岡山の会等約50人の参加。 宴もたけなわのころ、司会者(福岡支 部渡部事務局長)の発声により、各支 部、グループの自己紹介となった。当 北九州支部は、最初に指名され、我等 4人登壇し、原さんが代表で一言あい さつ。また、外のグループも順次登壇 し、自己紹介方々、石川さんとの「あ の山」での思い出話も披露され、山男 (女) の集いとの感じが一杯で大変良 かった。終宴近くを見計らい、明日は 我等北九州支部の山行行事(若杉~ 宝満縦走) があるゆえ、中座退場し た。

参加者:(講演会のみ)

大楠益弘、日向祥剛、室津健次 (講演会/懇親会)

> 高畠 拓生、 板倉 健一、 原 広美、 山田 武史

2月 月例山行記 (安蔵寺山からの変更)

雪不足のため 深入山(1.153m)で雪山体験

No.14476 武永 計介

21年2月7日(土) ~8日(日) に十種が峰で冬山合宿が行なわれました。当初は、キャンプ場に宿泊し、明朝より十種が峰にて雪上訓練の予定でしたが、雪不足のため、山を広島県深入山に変更し、実施されました。

7日15時に山口県庁に集合した一

行は、車に分乗し、一路十種ガ峰オートキャンプ場を目指しました。 キャンプ場ではパオ (モンゴルのテ

ント式住居)を2棟借りて、宿泊・宴 会をしました。

食事の準備ができるまで、初めて訪れた福岡組は、4駆でスキー場上部まで散歩に行きました。



キャンプ場のパオ

雪不足とはいえ、山頂付近は5cm 程度の残雪があり、腹ごなしの軽い 運動と成りました。

本日のメニューはスキヤキです。 お酒もたくさん入り、夜の更けるまで



深入山(1,153m)山頂は、一部雪が無かった。(原野氏撮影)

山談義が続きました。

8日は朝5時半に起床し、スキヤキ に御飯を入れて雑炊で朝食。

定刻の7時には、キャンプ場を出発して、一路深入山を目指しました。 往路、広島県境付近より積雪が増え、 登山口の蔵座高原では70cm程度の 積雪がありました。

身支度を調え、ストレッチ後、10時前に南登山口から山頂を目指します。 途中、雪も腐り埋まるので全員ワカンを装着しました。気温も上昇し、 全層雪崩が2箇所発生していました。

11時半に深入山山頂(1153m)に到着し、内藤リーダーより付近の山々について説明がありました。その合間に、滑落停止の練習やしり滑りを楽しむメンバーもチラホラ。記念写真後、西側へ下山し直下の小屋で昼食としました。メニューはサンドイッチとコーヒーでなかなかハイカラです。

下山は、雪山を100%楽しみ、道を外れて尻(しり)セードで、楽しく西側斜面へ滑り込みます。14時前には、南登山口へ帰着し、楽しい雪山も終わりました。16時には、山口県庁に無事到着しました。

CL、SLを始め各役員の方々、楽 しい雪山をありがとうございました。 2月 月例山行記 深入山雪山歩き

山登り 2年ぶりやけ~ん!

北九352 中澤恵子

2月の雪山歩き山行に参加しました。シンザンモノの私を入れて18人。広島県の「深入山(1153)」は近辺に芸北スキー場や恐羅漢山スキー場がある正に豪雪地帯の山ですが、その山容はドーム型の小高い丘のような優しい形をしておりました。

この日は快晴。気温もぐんぐん 上昇し、青い空に白銀の世界! 気 分もルンルン!

内藤正美さんに指導をうけ、初めてスノーシューを履きました。スノーシューは軽量で着脱しやすく、かつ雪上を歩きやすく快適でした。 快調! 快調! だったのですが、



シリセードで下りながら、滑落 停止をする瞬間の板倉さん

んにも追い越され、そして腹が痛いと何回もキジウチばかり行っていた篠田さん76才が追いついて来る来る。気持ちも足も重くなる一方です。頂上直下の急登では三歩登って二歩滑り落ちの鈍臭さ!後ろでフォローしてくれた板倉さんに、「山のぼり、2年振りやけ~ん!」と言い訳かまし、さぞやストックでど突きたかった事でしょう。

一歩一歩、下ばかりみて登頂! 1153 気の頂上は360度の雄大なパノラマが広がり、大山までも望めます。スノーボードを抱えて登ってる人や、スノーシューハイクのグループが数組いました。

下山路は木漏れ日差 すブナ林の林間コース。 「尻(しり)もちスライダ ー」などしながら白銀 のフィールドを思う存分 楽しみました。

予定時刻ぴったし無 事下山 。雪よ山よアリ ガトウ!!

1月18日 月例山行 若杉山~三郡山~宝満山縦走 全コースに8時間30分の所要時間!

北九408 山崎近史

昨年は山岳会の皆様には大 変お世話になりました。本年も 昨年同様よろしくお願いいたし ます。また山岳会の皆様に迷 惑をかけないよう、足手まといに ならないよう体力をつけ登山技術 の向上に努力したいと思います。

平成21年に入って初めての 山岳会の山行である。新四国 八十八カ所の霊場巡りで有名 な篠栗町の背後にそびえる信

仰の山、神霊がまします山千古の老杉とともに「霊峰若杉」といわれた霊山若杉山から、運輸省、今の国土交通省の福岡空港管制レーダー基地があり、車道が通っていて、今回の縦走路の中で一番高い山である三郡山から、電門神社の上宮があり、英彦山とともに修験道の山である宝満山への縦走である。

下関市内の4人と門司の板倉さんとで料金の安い青春キップを利用した。 青春は、とおーに過ぎた5人である。5 人で11,500円、行き帰りに1人当たり2,3 00円で安い。

門司港発6時21分発の快速に乗り、 吉塚駅で福北ゆたか線に乗り換え、8 時13分篠栗駅に着く。駅には今回CLを つとめられる山田さんを始め多くの方々 が待っておられた。8時35分メンバー 14人がそろいタクシーにて養老の滝登 山口に着く。今にも泣きだしそうな天候 である。雨が降らない事を祈りつつ準 備体操をし、体をほぐし8時53分若杉 山へと出発、杉林をジグザグに緩やか な登山道を登っていく。途中岳城又は 竹取城へ行く分岐点を歩いて汗が出る。 衣服の調整をし、水分補給の休憩をと



やっとたどり着いた宝満山山頂で(全員)

る。このあたりから自然林となる。雨が降ってきた。9時50分林道を越える。雨もいつかやんでいる。ここから登山道にはないが少し雪が見えてくる。10時に若杉奥の院に着く。奥の院には弘法大師ご修法の地で、神前に供える清浄な水を取るために独鈷で掘った独鈷水があり、ご霊水として喜ばれているそうだ。ここで水分補給とトイレ休憩を取る。ここから10分くらい登った所に霊峰若杉山の山頂、681mがある。山頂は無線中継所があり展望はよくない。10時18分出発、ここから人工林の杉林、ヒノキ林がつづく。しばらく下ると若杉ガ鼻というところに着く。

展望がよく篠栗の町や近くの山がよく見える。また雨が少し降ってきた。しばらく行くと県道60号線を横切る小さな橋がある。県道60号線より少し手前に古ぼけたこわれた山小屋がある。県道60号線を横切ったところで小休止する。そこに若杉山まで2.3km、砥石山まで2.6kmとある。まだまだ先は長い。11時に出発。雨の粒が大きくなってきた。11時20分、小休みを取りながら前へ前へと進む。鬼岩谷山へ近づくと周りは雪におおわれている。登山道も雪がシャーベット状になり歩きにくい。11時50

分鬼岩谷山山頂(774m)に着く。展望は良くない。12時11分砥石山(836m)に着く。ここも展望はよくない。12時36分、前砥石山(805m)山頂に着く。これから三郡山への登りとなる。今

回の縦走の中で1番高い山である。

山の下から冷たい 風が吹き上げてくる。 雪もだんだん多くなっ て来る。14時00分三 郡山 (936m) に着く。 山頂には大きな福岡 空港管制レーダー基 地がある。山頂には 雪が10cmぐらいあり 寒い。フェンスの未

端をすべり落ちないように注意しながら 下る。車道を少し下り登山道に入ったと ころにベンチがある。14時10分着、そ こで遅い昼食をとる。おなかがすいて いたので食事がうまい。だんだん手が 冷たくなってくる。体も冷える。食事も そこそこに14時23分出発。15時45分宝 満山(830m)に着く。霧が深く視界が よくない。帰りが遅くなるので15時53 分出発。16時16分七合目に着く。こ れから下りの石段が100段あるとのこ と。16時45分三合目の水場に着く。雨 の量が多くなってくる。皆雨具を付け 水分補給をする。だいぶ暗くなってき た。小休止もそこそこに出発。17時25 分竃門神社に着く。17時47分発のバス に乗り、17時55分太宰府の西鉄ターミ ナルに着く。バス代100円である。ここ からタクシーにてJR二日市駅に行き18 時21分発の快速に乗る。下関に20時50

皆さんお疲れ様でした。皆様のおか げで思い出深い山登りができました。 参加者 14人

原 広美 板倉健一 馬場基介 好木 隆 横山洋子 室津健次 山田武史 池田暁彦 坂本千佐子 森本信子 倉本とき子 山崎近史 福村拓己 平野一幸

支部に三つの快挙あり

No.13465 大楠益弘

全国支部懇談会の折の宮下秀樹会長の「支部設立8年目にしての快挙である」とのお言葉は、我が支部にとって大変名誉あるものであった。大庭支部長のゴーサインの下、関口事務局長のTPOの的確な判断に基づく、緩急自在な陣頭指揮があったればこそのものである。

会員の皆さんは、お気付きだろうか。特筆すべき快 挙は、まだわが支部に三つある。

太田満会員の百名山登頂2ラウンドが一つ目である。 第1ラウンド (2005年10月14日) からたった3年と14日し かたっていない。1回目は同年12月、忘年会の前に講 演をしてもらった。2回目(2008年10月28日完登)は、 忘年会ではあまり時間がとれず、JAC北九だより1月号 に報告してもらっている。その内容たるや実に淡々とし て、しかもたったの14行。マイカーを駆使し、17日間で 12座を踏破したことの燃えたぎる情熱は、うかがい知る ことはできない。いつ、どこで寝て、どこで飯を食い、 何を食うたのか、定かでない。2ラウンドした他の事例 を、私は寡聞にして知らない。念のためJAC本部にうか がってみたが思い当たらないと言う。そればかりではな い。「JAC北九だより31号」によると、2006年9月8日、 福智山5,000回登頂を達成している。1日2回以上登った 日は、195日あるそうでこの時点で5,200回を越えている。 43年間の実績であるが、今なお更新中であるから既に6、 000回以上であろう。とても人間業ではない。分類上は 「怪物」に属しよう。ある日、サロンルームで聞いたこ とがある。何を食べればそんなにパワーが出るのか。 何か特別にトレーニングをしているのか。その答えは「別 に」と、実にそっけないものだった。強い風圧にも耐え られそうもない「痩身」なのに、どうしてこんな偉業が可 能なのか。どうしても理解できない。さらに1月号にあ るように、本人は新しい目標に向かって再挑戦しようと している。山は本人にとって果てしない夢の世界なのだ ろう。興味津々、実に豪毅で頼もしい。胸の奥に燃えた ぎる情熱を秘めた、心憎いほどに静かなる山男である。

「二つ目の快挙」は、「踏みあと」。いわずと知れた当支部分水嶺踏査の貴重な記録集である。編集長は伊藤久次郎会員(副支部長)。無理やり頼み込んだその折りの苦心談が、やっとJAC北九だより1月号に載った。そうでもしないとだれが編集したのかと、そ知らぬ顔を決めこんで、すましている山男なのである。しかしその胸の奥には、山に、版画に機関誌発行にと情熱が激しく燃えているに違いないのだが。1月号15ページにあるように、そもそもこの仕事は伊藤Q兄いの担当ではなか

った。ところが、いつまでたってもそれが出来上がらな い。その一方で、本部や他支部から立派な記録が出版 され始めた。支部長がしびれを切らして、座談会を開 き、記録を残すことになった。さらに当支部が全国支部 懇談会の主管となるに至り、黙ってはおられぬと伊藤Q 兄いが記録集編さんに全力を傾けるに至った。以下、J AC北九だよりにあるとおりである。謙虚で淡々とした文 面であるが、それだけに並々ならぬ苦労があったこと が、うかがい知れる。私自身、拙文を寄稿したが、ふ だんから読みづらい文を提出している上に、今回は特に 6ページにおよび、ああでもない、こうでもないと訂正、 加筆を繰り返し、随分と手こずらせたはずである。座談 会記録にも相当ご苦労があったに違いない。文中(83 ページ)のH会員「あらー、今お酒ばかり飲んでいた ので、よく聞いてなかったわ」など、ユーモアたっぷり で楽しませてくれる。

伊藤Q兄14は、カテーテル手術 (3回) で、血管を 拡張させながら山にも頻繁に登り、JAC北九だよりを編 集してくれている。もっとも本来の趣味は、山岳の木版 画である。日本板画院、西日本版画協会会員でその出 展は数限りない。傍らに酒を置き、酒仙の世界に浸り ながら黙々と彫ってゆく姿が目に浮かぶ。その周りには くめども尽きぬ山男のロマンと、あくなき美の追究のオ ーラが醸し出されているに違いない。刷り上がった版画 には、高い芸術性はもちろんのこと、見る者を和ませて くれるものがある。伊藤Q兄いの人柄からにじみ出てく るものなのだろう。そして、踏査記録には、関口事務 局長のセンスあふれる命名により「踏みあと」として出 版された。仕上がりは内藤会員の献身的な作業により 立派な活字となった。伊藤副支部長を主柱としたスタッ フ面々の尽力により、この「二つ目の快挙」が当支部 に生まれた。分水嶺踏査に参加した会員は54人。少な くともこの方々には、この支部の宝物をぜひ購入してい ただきたいと思う。4月の総会でも販売予定である。「百 名山」、「踏みあと」の2人の男は、こちらから引っ張り 出さない限り表舞台に出てこない。彼ら二人の山男に日 本古来の武士の風格を見る思いがする。

「三つ目の快挙」は、支部山の歌集の編集であるが、 紙面の関係もあり、次号5月号で触れてみたい。



法華院山荘で

二月十

関口さんの古稀を祝う

二月十四日 九重法華院山荘

初夏のような陽気だった。山荘では、女性会員からであった。九重は温暖化の影響か、雪は全くなく、人が、九重の法華院山荘で関口さんの古希を祝った。上四日のバレンタインの日に、口コミで集まった十九十四日のバレンタインの日に、口コミで集まった十九十歳を迎えられた。日ごろの労をねぎらって、二月十歳を迎えられた。日ごろの労をねぎらって、二月十歳を迎えられた。日ごろの労をねぎらって、二月十歳を迎えられた。日ごろの労をねぎらって、二月十歳を迎えられた。日ごろの労をねぎらって、二月十歳を迎えられた。日ごろの労をねぎらって、二月十歳を迎えられた。

防湯圣由で長者の やがて眼下口赤、屋根愛の鐘の音、意となる 曲ら後す 暖冬の日差しを浴べて すがら、越大て北千里海 祝いの画宴が盛了上る JA Caの意気さいん 公場移動我大島自己紹介次のと続いばいばいばい 巴班哉 如耳點程分面盆生重的打了 聖の務島からウィスキー シインやシングが極い酒、 開小は足場を以了法華院 大朝日·梅冬大坊的る 静心与是林心与了香中。 别小车告中了南部池。 别小车告中了南部池。 生七十、古書稀し、社事 材からバスの人 詩 • 藤 田 傳 10P. 2.14~15.

広島支部会員も加わっての古希会となった。

酒や焼酎で、古希を祝った。関口さんにチョコが贈られたり、男性陣が持参した

レトロな汽車の旅

広島支部との交流

あと、再びバスと列車で家路に就いた。翌日は、数グループに分かれ、各ピークに登ったがグループに参加、両支部の交流会となった。委員長)以下六人も山荘に泊まっており、急きょ我委員長)以下六人も山荘に泊まっており、急きょ我

計画担当 伊藤Q)

風竹大高 一名 眼下は松がるパラマは风が岩頭、山頂の金板山地はよの端 風頭 肌で感る 移ろう季節大陸でろの初番砂 海城でくの贈りもの船のエンジン、気笛の響き ※天等山から、谷城えて 行き交うタンカー慢物船 小家江見重公園の 风师南崎 风师山 月行岩頭後まして 丑大慈 マ立つ お設んが見えた。 詩 藤 田 109.2.11. 傳

◇ ◇ ◇ 報告・連絡など◇ ◇ ◇

支部事務局担当者会議の報告

(平成21年2月7日~8日、東京)

関口 興洋

1. 会議の大半は、法人改革に関する本部側の説明と、支部 側からの質問に費やされた。

一方、公益法人化プロジェクトチームの佐野忠則氏(東 海支部総務委員長)がまとめられた報告書が、大変分かり やすく、問題点を解説しております。

このたび、佐野氏のご了解を得て、本支部報(2~3ページ)に掲載しましたので、本稿をご参照下さい。

- 2. 各支部の周年行事などの日程が決まったら、できるだけ早く本部へ連絡してもらいたい、との要請があった。
- 3.「山の日」制定化に向けて
 - (1) プロジェクトチームの立ち上げ本部に「山の日」プロジェクトチームを設置する。本部5~10人、支部5人(各ブロックから1人)
 - (2) 各支部に「山の日」担当者をおく。3月7日まで本 部報告。(北九州支部は、日向祥剛委員を担当者に選 任した。)
- 4. その他の案内
- (1) 自然保護全国集会

日程 平成21年6月20日(土) ~21日(日) 場所 20日・秋田市内 21日・太平山

(2) 第25回全国支部懇談会

日程 平成21年10月25日〈日〉~26日〈月) 記念講演と懇親会および記念登山

場所 福島県 磐梯山(会津富士)周辺

主管 福島支部

以上





(最近の新聞記事などから)

釜トンネル消灯 真冬の上高地

北アルプス・上高地に通じる松本市安曇野の県道釜トンネル内の照明が、車両通行止めとなる冬期閉鎖(11月16日~09年4月15日)の間、非常灯と待避所2カ所の照明を除いてすべて消灯されている。軽装で上高地に入る観光客を抑制しようという初めての試みで、県松本建設事務所などが、注意を促す看板をトンネル入口に設置した。

(12月28日 東京新聞)

中部山岳に調査の手(長野)

北アルプス・上高地をはじめとする中部山岳に、学術研究

の手が入りつつある。自然公園法などで開発や改変が規制される「聖地」。貴重な自然を後世にどう残すか、気候変動の 影響はどの程度起きているのかを探るのが主な狙い。

1月30、31の両日、松本市の信州大に、信州、筑波両大学の自然科学系の研究者が集まった。八ガ岳などに演習林を持つ筑波大と設置した合同の研究集会で、地球温暖化による環境変動を解明するのがテーマ。2つの大学から20余りの研究が報告され、熱心な議論が交わされた。

そのうちの1つ、上高地の平らな地形ができた経緯や過去の気候変動を調べるため、大正池近くでボーリング調査を始めた信州大山岳科学総合研究所の河合小百合さんは「上高地の堆積(たいせき)物は古気候の宝庫。氷河時代を含め、ありとあらゆる気候を経験している」と調査の意義を説明。「結果が楽しみ」と述べた。

(2月1日 東京新聞)

山岳遭難、発生件数前年下回る 県警が08年まとめ(岐阜)

岐阜県警生活安全部は1月7日、昨年1年間の山岳遭難発生状況のまとめを発表した。発生件数と遭難者数、死者数でいずれも前年を下回った。55件67人の遭難があり、死者5人、行方不明者3人だった。

発生の7割以上が奥穂高岳などの北アルプスに集中し、月別では8月が16件で最も多かった。

経験年数を問わず遭難しており、10~20年の登山経験者が3割近くを占めた。年齢別では60歳以上が27人で最多。80代の高齢者が途中で歩けなくなる事例もあったという。また登山届けを出していない人が、41人に上った。

(1月8日 東京新聞)

<u>山岳遭難、最多の182件08年</u> 60代以上が48%(長野)

長野県警は2月9日、2008年の山岳遭難発生状況を発表した。夏山を中心に年間を通して遭難が多発し、件数は前年より16件増の182件で、1954年の統計開始以来、最多を記録した。

死者は44人、遭難者は199人だった。年代別の遭難者は60 代以上が過去最多の48.7%に上り、登山者の高齢化を顕著に 示している。

病気による遭難は24件と増加傾向で、うち10人が亡くなった。主な死因は心筋梗塞など循環器系の疾患。薬を服用しながら登る人も増えており、県警は「持病のある人が無理して登るのは、今までになかった傾向」と、慎重な登山を呼び掛けている。 (2月10日 東京新聞)

浅間山の活動活発

2月2日未明に噴火した長野、群馬県境の浅間山(2,56

8位)について、気象庁は2月6日、昨夏のごく小規模の噴火前後から、火口直下付近が膨張、火山活動の活発化を示していたとする分析結果を公表した。

同庁によると、6日の火山性地震は、午後3時現在で18 回と減少しているが、火山性ガスが多く、噴煙も高いまま なことから、火山活動は依然活発とみている。

(2月7日 東京新聞)

<u>大学山岳部の復活サポート</u> 日本山岳会東海支部

若者よ、ヒマラヤを目指そうー。各地で衰退が著しい大学 山岳部の復活に向け、日本山岳会東海支部(名古屋市)が 支援に乗り出した。「きつい、汚い、危険」の3Kが敬遠され、 東海地方も「絶滅に近い状態」。学生の挑戦の場として海外 遠征を企画したり、大学間の連携を手助けしたりし、次代を 担うクライマー育成を目指す。

支部青年部が今年に入り、東海地方の大学山岳部の実態 把握を始めたところ、既に消滅したり、名門校さえ部員がわ ずか2人に激減したりなど危機的状況が浮かび上がった。

対策として、同支部は今月(2月)、各大学でほそぼそと活動する学生等に、支部の「ヒマラヤ研究会」への参加を呼びかけ始めた。第一線の登山家らが技術や情報を若手らに伝授する場で次回は2月20日。

学生たちに大学の垣根を越えたネットワークづくりの場として活用してもらい、学連復活につなげたい考え。個々の大学では大掛かりな活動が難しい学生のため、支部内に学生部設立も検討する。 (2月16日 東京新聞)

<u>ます渕ダム堰堤通行止め</u>

福智山の登山口であるますぶちダム管理出張所では、 ダム堰堤の改良工事のため、3月3日~4月15日の間通 行止めにすると発表した。なお、日曜日は工事が休み なので通行可能。 (ダム管理出張所問い合わせ)

<u>阿蘇根子岳で女性が滑落 重傷負う</u>

2月28日午前、阿蘇・根子岳で、男女4人が登山中に、 女性1人が滑落し重傷を負った。

警察と消防によると、午前11時ごろ、福岡県に住む男女4人が阿蘇・根子岳の頂上付近を登山中、「1人が滑落した」と、県警に通報があった。滑落したのは、福岡県京都郡に住む36歳の公務員の女性で、県の防災へりで熊本市内の病院へ搬送された。200メートルほど落ちたとみられ全身を打撲するなど重傷。また、同じ登山メンバーの37歳の女性も滑落した女性の様子を見に行く際に左足をねんざをして、阿蘇市内までへりで搬送された。

根子岳付近はたいへん険しく滑落に注意が必要なところだといわれている。 (2月28日 熊本朝日放送)

会員異動 (3月1日現在)

会員数

本部会員82人支部会員72人会友5人合計159人

新会員

支部会員

北九427 佐野 敦 嘉麻市(紹介者 高畠) 北九428 稲富 榮 下関市(紹介者 内藤)

前回45号で、新支部会員の「北九424 安田秀世」 さんの氏名を「吉田英世」と記載、字が間違ってお りましたので、訂正しておわびをいたします。

門司山歩会からのお知らせ

No.13465 大楠 益弘

6月、花の季節に久住山を訪ねます

今回は北九州支部と門司山歩会の交流登山を計画しました。 ふるってご参加下さい。

〔要 領〕

と き 6月6日(土)~7日(日)

コース (6日) 門司駅北口~赤川~久住山~牧ノ戸

(7日) 牧ノ戸~扇ガ鼻~岩井川岳~瀬の本

登山口

宿 泊 九重高原ホテル 10973-79-2211

交通機関 マイクロバス 門司駅北口7:00 発

(10号線途中乗車可)

費 用 16,000円前後(宿泊料込み)

申込先 大楠益弘 FAX 専用 093-371-4933

TEL 090-3196-8939

〆切り 4月30日(木)まで

北九州支部実施による 中央分水嶺踏査記録集 「踏みあと」販売中

日本山岳会創立100周年記念事業の一つとして実施された、日本列島中央分水嶺踏査の一部を、北九州支部が踏査した苦闘の記録。踏査から反省、参加者による言いたい放題の思い出座談会や歴史余話など。60件に上る本部報告書など資料として添付。

分水嶺踏査に参加された会員は、 貴重な記録としてぜひ購入されるよう

路みあと

おすすめします。その他の会員も、分水嶺踏査とはどういうものであったかが分かる参考書として、ぜひお求め下さい。B5版、1,000円。希望者は、関口事務局長まで。サロンや総会会場でも販売予定。

山行計画のご案内

3月の山行

福智山(901汽) 清掃登山(3/22、日)

3月22日(日)午前11時30分、

ところ 福智山頂上集合(ゴミを拾いながら、コース自由)

昼食後12時出発し、縦走路を清掃しながら牛斬山まで南下し、採銅所駅へ下山、解散。

ゴミ袋は駅に留置し、翌日回収してもらう。

ポリ袋 (事務局で準備) とハサミ、その他登山に必要な装備品 携行品

計画担当 関口興洋 (TEL/FAX093-382-6436、または090-8919-6776)

参加申込 3月15日まで。

4月の山行 (予定)

陶ガ岳(250m) 岩登り基礎訓練(4/19、日) (中級)

Ħ 的 岩場を安全に通過するための訓練

ح き 2009年4月19日(日)

ところ 下関市一の宮 玉姫殿前駐車場に集合

時 間 午前7時

ハーネス カラビナ 下降器 (エイト環他) 装 備

参加費 1,000円(保険料含む)

参加申込 板倉 健一(Tel 自宅 093-321-1038 会社 093-331-0687)

締め切り 4月6日(月)

5 月の山行 (予定)

(1) 右田ガ岳(426m)~西目山(5/17、日) ��を縱走(初級)

コース縦走約6時間くらい。

参加申込 計画担当 横山洋子(TEL/FAX 083-253-3031)まで

締め切り 4月末

(2) 英彦山(1200m)山開きと前夜祭(5/23~24、または5/30~31)

バンガロー泊

参加申込 計画担当 高畠拓生、日向祥剛まで

6月の山行 (予定)

十方山(1328m、広島県)(6/27~28)キャンプ ササユリの花 (中級)

広島支部との交流登山

参加申込 計画担当 内藤正美まで

サロン ルーム 毎月第4水曜日

毎回盛況、ご参加歓迎!

3月のサロンは、25日(水) 4月のサロンは、22日(水)



と き 午後6時30分から

ところ 小倉北区魚町「コール天」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

会 費 3,000円前後(ワリカン制です)

編集後記

○支部で使う「山の歌本」を作ってい ます。次の歌(曲)が録音されたCD、L

Pレコード、カセットテープなどお持ちの方は、伊藤Qまで ご一報下さい。山の歌CDに入れ込みたいと思います。

曲名 ②冬山に眠るあいつ ②黒い瞳の ◎山の大尉 ◎山 の友へ(によせて)◎かわらぬ恋 ◎1日の終わり ◎青い山 脈 ◎夏の思い出 ◎山小屋の灯 ◎里の秋 ◎谷間の灯 ◎ 冬の星座 ◎白い花の咲く頃 ◎仰げば尊し ◎蛍の光

○原稿は関口事務局長または、伊藤Qまで。

伊藤のアドレス rw4ux6@bma. biglobe. ne. jp です。 デジカメ写真は縮小せず添付で送って下さい。

○次回の原稿締め切りは、4月25日です。